にプラスに転じた。 産業で2・6となり、

他方、

同収益

の状態を強いられている。

なかでも深刻なのは運輸業と飲

一年半ぶり

はマイナス0

8.

企業の割合を差し引いた値) 企業の割合から「減少」と答えた 上額判断DI(「増加」と答えた

は 全

合を差し引いた値)は、

全産業で 超過

合から「不足」と答えた企業の割

(「過剰」と答えた企業の

割

マイナス33・0と、

「不足」

売上額がプラスに転じる

売上·収益

人手不足が常態化

人手

人手不足感はまっ

たく収

ま

5

常態化している。

過不足判断

足元の動向を示す前年同期比売

機械器具部品は大幅改善 景況感が小幅改善

中小企業景気動向調査(4~6月期)

当金庫が行っ の結果がまとまった。 中 小企業景気動向調

たものの、 には至らなかった。 が止まず、 全体として景況感はやや改善 先行き懸念を払拭する 人手不足を懸念する声

答率91・8%) 992社。回答数は9 調査期間は5月2日~ 調査対象はお取引先企業 社。(回 6 月 7

小幅な改善にとどまる 景況感2期ぶりに改善

業の割合を差し引いた値) 業の割合から「悪い」と答えた企 企業の景況感を表す業況判断 (業況を 「良い」と答えた企

> ただ改善幅は小幅なものにとどまり、 業でマ 製造業は1 マイ ナス3 ナス4・ 9

機械器具部品が改善、プラス浮上

マインドはおおむね横ばい推移 べ改善した。改善は2四半期ぶり。

2・7となった。

寄与した模様。 の国内外の機械需要の持ち直しが ラス領域に浮上した。このところ ント改善して、 械器具部品が12・0。 業種別にみると、製造業では機 2四半期ぶりにプ 14・5ポイ

新車販売の年度末商戦の反動減が 自動車部品はマイ 3月期にくらべ大幅に悪化。 ナス14 3。

0・9ポイント改善のマイナス てマイナス5・3。 ・0ポイント改善し 非製造業は

響いたとみられる。

非製造業では、とくに飲食業と

不動産業の改善幅が目についた。

不動産業は24

3.

堅調な需要

金属製品、木材・木製品は悪化した。 品、出版・印刷、食料品は改善。 そのほか、窯業・土石、 繊維製

飲食と不動産の改善目立つ

リンク類がよく売れた」といっ いるものの、

声も聞かれた。 恵まれた休日が多かったため、「ド 幅改善となった。比較的に好天に は依然として水面下にとどまって 飲食業はマイナス17・ 27・2ポイントの大 9.

業況判断DI(「良い」 - 「悪い」) 20 (%ポイント) ↑良い 0 ↓悪い **▲** 20 製造業 **4**0 非製造業 **▲** 60 ▲ 80 → 全産業 09 15 17 10 11 12 13 14 16

お客様の声

- ・アルミニウム市況が回復している。(ア ルミニウム合金製造)
- 限する制度が実施されると、さらに効率 化を進めないと現状の生産量の維持も難 しくなってくる。(自動車部品製造)
- 態。販売価格が低下している。(生コンク
- 客が少し増加。(米穀店)
- スが増加。海外のバイヤーを探す努力を している。(繊維原料商社)
- 見積もり要請が多くなっている。(建設 工事業 ・今後、技術開発がさらに進んで、トラッ

- ・新サービスを始めたところ、メディアに 取り上げられ、知名度が上がった。新規
- ・情報化が進んで遠方の設計事務所からの
- クにも乗用車に劣らぬコンピュータ機能 が追加されていくので、その知識の修得 が大変になる。(大型自動車修理)

・人手不足が課題。同時に、労働時間を制

・繊維メーカーから輸出を依頼されるケー

・建設需要が低迷しており、競合過多の状

経営上の問題点

かった。

建設業はマイ

-ナス4

8.

1 年

として減収が続いている。

となった。

昇。ややマインドが持ち直す格好

月期とくらべて1

3ポイント

DIはマイナス2・6。

4

6

9月期の業況判断見通し

自動車部品や建設は改善へ

業種別にみて増収増益だったの

ぶりにマイナス領域へと落ち込ん

予算執行の端境期にあった公

運輸業、 製造業、

ービス業。

減収減益は

卸売業、

飲食業、

不動産業、

動産業などで改善が見込まれて

自動車部品製造業、

建設業、

不

共工事業が振るわなかっ

たことが

小売業、

建設業。

た。

個人向け

ť

ービスは冴えな

などの法人向けサ

ビスが牽引し

ント上昇の12・8。

メンテナンス

減益 ◀

20 6 .

サ

ビス業は10・6ポイ

件の不足」をあげる企業が4割を

増収

減収

業況見通し

超えている。

運輸業は17

・9ポイン

ト改善の

いる。

経営上の問題には

「商品物

3年ほど持ち直しの基調が続いて

改善は3四半期ぶり

のこと。

た

食業で、

「人件費が上昇している」

1位 人手不足(38.9%)

2位 売上の停滞・減少 (38.0%)3位 同業者間の競争激化

(26.2%)4位 利幅の縮小(23.0%)

5位 人件費の増加(17.8%)

重点経営施策

1位 人材の確保(45.1%)

経費の節減(38.8%)

4位 情報力の強化

(15.8%)

い」といった声もあがっている。

やアル

も集まら

2位 販路の拡大(44.3%) 3位

(18.8%)

5位 教育訓練の強化

経済月報 2017.8